

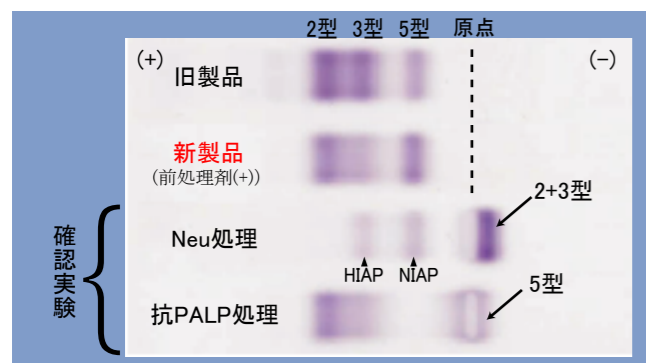
新製品のお知らせ① ALPアイソザイム用試薬

クイックジェルALP試薬

アガロース支持体用のALPアイソザイム試薬新製品を、2004年12月1日より販売開始いたしました。

電気泳動においては、小腸型(5型)ALPの一部である高分子ALP(HIAP)が骨型(3型)ALPに重なり、骨型の値(%)が見かけ上高くなってしまふ可能性があります。

クイックジェルALP試薬は検体に前処理剤(プロテアーゼ)を加えることにより、HIAPが通常型(NIAP)の位置に移動し、より正確な骨型ALPアイソザイムの値(%)を得る事ができます。クイックジェル支持体用(J846:12枚用,J847:20枚用)、およびREP支持体用(J848)をご用意いたしました。



乖離検体例 (REP ALP-30プレート使用時:弊社社内データ)
 ※Neu処理: clostridium由来ノイラミナーゼ処理
 ※抗PALP処理: 抗胎盤型ALP抗体処理

エパライザ2 用手法

J846: クイックジェルALP試薬(QG) 12枚用

- 基質剤(試薬A) 1.5mL用×3本
- 基質溶解液 5mL×1本
- 発色試液(試薬B) 3mL×3本
- 前処理剤 1.0mL用×3本

エパライザ2 用手法

J847: クイックジェルALP試薬(QG) 20枚用

- 基質剤(試薬A) 2.0mL用×4本
- 基質溶解液 8mL×1本
- 発色試液(試薬B) 4mL×4本
- 前処理剤 1.5mL用×2本

REP

J848: クイックジェルALP試薬(REP) 300検体用

- 基質剤 1.5mL用×10本
- 基質溶解液 15mL×1本
- 発色試液 15mL×1本
- 前処理剤 3.0mL用×1本

左図解説

旧製品: 3型のバンド上にHIAPが重なり、本来の3型以上に見かけ上染色されている。
 新製品: HIAPが5型の位置にシフトし、本来の3型の染色像が得られている。
 Neu処理: 小腸型ALPはノイラミナーゼ処理によって電気的移動度が変化しないため、HIAPとNIAPが残存している。
 抗PALP抗体: 小腸型ALPと交叉反応を起こすため、免疫複合体を形成し塗布点残渣として染色される。

ALPパターン例:クイックジェルALP使用

新製品のお知らせ② IFE用支持体、抗血清セット

クイックジェルIFEキット

免疫固定法(IFE)は、国際骨髄腫作業グループ(IMWG)のM蛋白分類基準のレポート(2003)※において、M蛋白型判定の“ゴールドスタンダード”であると紹介され、今やM蛋白型判定法として確固たる地位を築いています。

弊社ではIFEを簡単に、より早く、より多くの検体数処理ができるようクイックジェルIFEキットを開発し、2005年1月5日より販売開始致しました。

この支持体は従来からの用手法に加え、自動機器にも対応するなど以下のような数々の特徴を持っています。M蛋白を多数処理する施設等では、特にこのキットをお勧めします。

※Br J Haematol. 2003 Jun;121(5):749-757

特徴

- バッファー準備の必要がなく、操作が簡単です。
- 支持体1枚で2検体同時に測定できる他、1検体当たりの抗血清の使用量も少量で済むため、時間、コスト共に削減できます。
- 自動化に対応しています(エパライザ2に対応)。

J9031 クイックジェルIFEアガロースセット(QG) 支持体、染色液、プロッターのセットです。

支持体 10枚 プロッター-B 30枚
 染色液50mL 1本 プロッター-D 40枚

J9032 クイックジェルIFE抗血清セット(QG) 抗原抗体反応用抗血清と蛋白固定液のセットです。

蛋白固定液 1.0mL 抗ヒトIgM血清 0.75mL
 抗ヒトIgG血清 0.75mL 抗ヒトκ型血清 0.75mL
 抗ヒトIgA血清 0.75mL 抗ヒトλ型血清 0.75mL

J654 クイックジェル抗血清アプリケーターセット IFEで抗血清の注入時に使用します。

抗血清アプリケーター1枚
 アライニングベース 1枚

各製品の詳細につきましては、弊社営業部(048-833-3208)までお問い合わせください。

HELENA UPDATE JAPAN

発行所 株式会社ヘレナ研究所(年3回発行)
 〒330-0061
 埼玉県さいたま市浦和区常盤9-21-19

電話番号 048-833-3208
 編集者 営業部企画課 宮下真一

9507(1)

株式会社ヘレナ研究所ホームページ

www.helena.co.jp

▶

弊社製品の機器情報、アイソザイム・脂質分画・蛋白分画・免疫電気泳動等の検査項目に関する情報、トピックス等が掲載されています。是非御覧下さい。

2005年 2月号 Vol.10 No.2

◆主な内容◆

第36回日本臨床検査自動化学会の報告

シリーズ:アルカリホスファターゼ③
 アルカリホスファターゼの各アイソザイムについて

新製品のお知らせ① ALPアイソザイム用試薬
 新製品のお知らせ② IFE用支持体、抗血清セット

第36回日本臨床検査自動化学会の報告

第36回日本臨床検査自動化学会が、9月29日(水)から10月1日(金)にかけて、パシフィック横浜(神奈川県)において開催され、学会、展示会併せて6,645名の入場者があり、盛況の内に終了しました。

弊社では共催展示会において、アガロース支持体『クイックジェル』を用いた全自動電気泳動分析装置『エパライザ2』、そして新発売の免疫固定法(IFE)の自動電気泳動装置『SPIFE 3000』を中心に展示を致しました。

エパライザ2はアガロース支持体を用いた世界初の全自動電気泳動装置であり、国内はもちろん、海外からも多くの見学者がありました。

またIFEは簡単にM蛋白の検出ができる事が特徴であり、多検体処理が求められていましたが、SPIFE3000では支持体1枚につき6検体と、大量に処理が行えることから、M蛋白の検査を多く行っている施設に好評価でした。



SPIFE 3000

エパライザ2



ヘレナブース

■訂正とお詫び
 前回Update Japan (2004年9月号)の特集「アルカリホスファターゼの測定法について」において誤りがありました。文中で小腸型ALPの緩衝液中での反応性について、「EAE>DEA>MEG≒AMP」と説明しましたが、これは、「EAE≒MEG>AMP≒DEA」の誤りです。訂正しお詫び申し上げます。

